

鉢物リンドウに適した「熊育 FG01」「熊育 FG02」「熊選 FG03」の選定

「熊育 FG01」「熊育 FG02」「熊選 FG03」は、それぞれ開花期が早い、白色とピンク色の覆輪、花冠直径が大きいという特徴を有し、いずれも鉢物リンドウとして適した系統である。

農業研究センター農産園芸研究所バイオ育種研究室 (担当者: 飯牟禮和彦)

研究のねらい

本県の県花であるリンドウは、現在阿蘇・上益城地域の高冷地で切り花栽培されている。鉢物ではほとんど栽培されていないが、農家では新たな品目として注目している。そこで、本県で遺伝資源として保存している系統や交配および自殖等により得られた個体の中から鉢物に適した系統を選抜する。

研究の成果

1. 「熊育 FG01」はエゾリンドウ系で花冠内面上部が青紫色で開花始期が早い。平坦地でも生育が良く花数は増加する (表 1、図 1)。
2. 「熊育 FG02」はササリンドウ系で花冠内面上部が白色とピンク色の覆輪である (表 1、図 1)。
3. 「熊選 FG03」はササリンドウ系で花冠内面上部が青紫色で花冠の直径が大きい。開花時期の揃いも良くボリューム感がある (表 1、図 1)。

普及上の留意点

1. 今回の耕種概要については表 2 のとおりである。挿し芽用の用土は赤玉を使用したがる、粒径が大きいと挿し芽後の活着が悪くなるので、粒径が小さいタイプか赤土を用いる
2. 標高 300m 以上の高原地帯での栽培に適するが、平坦地でも夏越しは可能と思われる。しかし、特に平坦地で「熊育 FG01」「熊育 FG02」は徒長したり、草姿が乱れやすいので、わい化剤の使用や摘芯時期を遅らせることが必要となる。また、「熊育 FG02」は夏期に温度が高いと花冠内面上部がピンク色のみとなり、覆輪でなくなることがある。
3. ポリポットに挿し芽する際、ボリューム感をもたせるためになるべく株の間隔が広くなるように挿す。

表 1 各系統の主な特性

系統名	場 所 (年度)	挿芽時期	調査 ポット数	開花 始期	株数 /ポット	花数	草丈 cm	花冠直径 mm
		月/日		月/日				
熊育FG01	山都町A	3/5	6	8/4	4	30	14	21
		3/19	13	8/15	4	28	14	22
		4/2	3	9/1	4	16	10	20
	山都町B 甲佐町	3/31	2	9/17	5	40	22	—
		3/31	3	9/21	5	51	25	—
熊育FG02	山都町A	3/5	10	9/13	4	43	25	31
		3/19	6	9/15	4	38	23	29
		4/2	7	9/25	4	28	18	31
	山都町B 甲佐町	3/31	3	10/8	5	40	24	—
		3/31	3	10/19	5	38	30	—
熊選FG03	山都町A	3/5	2	9/7	4	27	16	48
	山都町B	3/31	2	10/4	5	34	18	—

注：山都町A：方ヶ野南井野(2009)、山都町B：城平(矢部高校)(2010)、甲佐町：吉田(2010)



図 1 各系統の草姿および花

注：いずれも 2010 年 3 月 31 日挿し芽

表 2 耕種概要

日数	作業	内 容
—	親株管理	・親株は花を摘み取っておき、霜に当たって地上部が枯れたら地上1cm程残して刈り取る。
1月下旬	親株入室	・ガラス温室に移し夜温10~12℃、昼温は25℃以下。
0	挿し芽	・採穂は頂芽3節で切り取り、水に浸す。 ・切り口に発根剤を付け7.5cmポリポットに1節が隠れるように5本挿す。 ・用土 赤玉7:ピートモス3、(pH4.5~6) ・挿し芽2~3週間は風通しが良い日陰、その後寒冷紗で日覆いした場所、様子を見ながら日覆いをとる。
21	追肥開始	・家庭用花液肥(チッソ:リン酸:カリ=5:15:5)400倍液肥を施用し、鉢上げまで肥料を切らさない。
42	摘芯①	・下から3節を残して摘芯。
84	鉢上げ	・12cmポリポットに植え替える。 ・用土 赤玉5:ピートモス3:腐葉土2
98	摘芯②	・伸長した側枝の2~3節を残して摘芯。
112	IB化成追肥	・IB化成を鉢当たり4~5粒置肥。後は生育を見ながら液肥を施用。